



光明中学校だより

ひかり 明るい みんなの笑顔 心がステキ 光明中 ～人と人のつながりがたからもの～

第6号【令和7年7月1日】 生駒市立光明中学校 校長 斉藤 稔

3年生の修学旅行を実施しました

何度訪れても、心が痛む場所があります。沖縄戦でどれほどの人の命が失われたか、それを目で確かめることの出来る場所。それが、沖縄県・摩文仁の丘の下に創られた「平和の礎」です。1995年に建設された「平和の礎」には、世界の恒久平和を願い、国籍や軍人、民間人の区別なく、沖縄戦などで亡くなられた24万人以上の氏名が刻銘されています。ガイドさんの案内で、奈良県の戦没者の氏名が刻まれた碑を見学しましたが、その近くに、わたしの母親の伯父の名前も刻まれていました。戦争が終わる少し前、特攻隊員として飛行機で飛び立ったものの、帰ることなく散り去ったという伯父の話を、幼いころに母親から聞かされたことを覚えています。伯父を愛おしく思うわたしの家族がいたように、24万人それぞれに大切な家族がいたはずです。家族はどんな気持ちで兵士たちを戦場に送り出したのでしょうか。平和祈念公園での学習の後、生徒たちは平和祈念資料館で学びを深めました。「歴史を体験するゾーン」では展示物の内容をしっかりとメモをとりながら戦争の悲惨さに思いを巡らせ、沖縄の住民が見た沖縄戦の証言手記をじっくりと読んでいました。令和7年度は、沖縄戦終結から80年の節目の年となります。生徒たちが考えた平和宣言の中に、こんな言葉があります。「言葉にできないほどの犠牲の上に成り立つ『今日』を生きている私たちは、命の危険を感じることもなく、日々暮らしていますが、平和である日常が当たり前と思っていけないと改めて感じています」不気味な風が吹き荒れる今日の世界情勢の中で、大人たちが悲惨な戦争体験を風化させることなく、その教訓を後世に正しく継承していくことの大切さを再認識させられました。また、修学旅行の2日目、3日目は今の沖縄を学ぶ目的で、沖縄の食文化を体験したり、伝統工芸や産業を見学したり、マリンスポーツをしたり、買い物を楽しんだり、生徒たちの笑顔があふれる充実した3日間になりました。保護者の方々には修学旅行のためにいろいろと準備していただき、また朝早くからの送迎等ご協力をいただき、ありがとうございました。

